

# 下妻市環境アクションプラン



## 下妻市環境アクションプラン策定の目的

本市では、平成 24 年 9 月に下妻市環境基本計画を策定しました。また、その見直し版を平成 30 年 3 月に策定・公表し、「快適な住環境のまちづくり」、「みどりと清流のまちづくり」、「循環型へのまちづくり」の 3 つの基本目標を設定しました。

今回、環境基本計画の進行管理を市民や事業者のみなさまに見える形で実践・検証することを目的として、下妻市環境アクションプランを策定することになりました。

下妻市環境アクションプランでは、特に推進すべき課題を重点事業として位置付けし、市民や事業者のみなさまと市が連携しながら、それぞれの環境保全に向けた具体的な行動計画を策定していきます。

重点事業には、本市を代表する水辺である砂沼の環境と、ゼロカーボン達成に向けて求められる地域循環共生圏の実現に向けたバイオマス活用を選定しました。それぞれの重点事業について検討した内容をお知らせします。

## 下妻市

令和3年2月

# ありたい未来の砂沼

# 砂沼アクションプラン

- ・郷土の誇り 美しい砂沼 : 歴史ある砂沼を美しい姿で次の世代に繋いでいく
- ・砂沼の魅力をみんなに発信 : 訪れたひとが何度でも訪れたい魅力あふれる砂沼を創る
- ・豊かな生き物を育む砂沼に : 貴重な水辺である砂沼の豊かな生物多様性を保全する

砂沼アクションプランを推進するにあたり、4つの課題を抽出しました。

課題①水質向上、環境美化 : 清らかな砂沼の水辺の創出に取り組めます。

課題②生態系保全・調査 : 砂沼の生物相の把握、保全の在り方について検討します。

課題③環境学習、親水的空間の創出 : 安全に利用できる水辺を作り、環境学習等に活用します。

課題④地域活性化 : 市民や観光客に、下妻市のシンボルである砂沼の魅力を発信していきます。

各課題の具体的な目標について、達成までに要する目安の期間として、**短期的目標（2年以内）、中期的目標（3～5年）、長期的目標（5～10年）**をそれぞれ設定しました。各課題の具体的な目標を以下に示します。

## 短期的目標（主なもの）

- ・水質検査の回数を増やし、新しい指標である見た目アオコ指標調査を継続して実施します。（課題①）
- ・3月の非灌漑期に砂沼の水位を下げ、清掃活動を行う際に、ごみを拾いやすくします。（課題①）
- ・砂沼の生物相調査を行い、守るべき生物種の選定と生態系評価を行います。（課題②）
- ・砂沼の動植物を対象にした観察会を開催します。（課題③）
- ・釣りなどの従来の観光を維持しつつ、環境に配慮した新たなイベントを検証し、来訪者の増加を目指します。（課題④）

## 中期的目標（主なもの）

- ・現状、灌漑期（4月～9月）のみ引き込んでいる用水を、通年で引き込めるように関係各所に働きかけ、水が滞留して砂沼の水質が悪化しないよう、常に水が流れる環境を目指します。（課題①）
- ・ヨシなどの湿生植物を植栽することで水質浄化を図るとともに、市民ビオトープとして植栽をイベント化し、環境を守る意識を醸成します。（課題①、課題③）
- ・砂沼の生物多様性地域戦略を策定し、保全対象種や外来種問題などを市民に啓発していきます。（課題②）
- ・従来の観光、歴史、文化と連携した新たなイベントを構築します。（課題④）

## 長期的目標（主なもの）

- ・魚類などの生き物に配慮しつつ、かいぼり（池干し）による湖底のごみや底泥のヘドロの除去が可能か検討します。（課題①）
- ・コシガヤホシクサの野生復帰、その他貴重種の保全を目指します。（課題②）
- ・砂沼の一部に安全な親水的空間を創出し、定期的に生き物観察会を行うなど、積極的な利活用に努めます。また、ビジターセンターの設置を検討します。（課題③）
- ・エコツーリズムや地域通貨の導入など、何度でも砂沼を訪れたい仕組みの導入を検討します。（課題④）

## 砂沼アクションプランの推進主体の設置

砂沼アクションプランが円滑に機能するために、市・市民・市民団体などの各主体が協力・連携するための推進主体として、**砂沼連絡協議会（仮称）**を設置します。

# バイオマス 環境アクションプラン

○下妻市では環境基本計画の中で、基本目標の一つとして「循環型社会へのまちづくり」を掲げています。

この目標を達成するためには、温室効果ガスの排出抑制や資源の有効利用に配慮した実践的な行動に取り組む必要があります。地域の特性を活かした施策を進めるとともに、ごみの減量化を積極的に推進して資源の消費を抑制した循環型社会を目指します。

地域の特性を活かした施策として、農業の盛んな下妻市に多くあるバイオマス資源を有効に活用していかないか検討を行いました。

始めに、市内のバイオマス資源が抱える問題点を洗い出しました。

○下妻市の抱える問題として、以下のものが浮かび上がってきました。

- もみ殻や稲わらの野焼きによるばい煙、悪臭問題
- 果樹剪定枝の処分の問題
- 堆肥化した際の臭気問題、堆肥が余ってしまう余剰堆肥の問題
- ごみの分別がされておらず、有価資源も可燃ごみとして焼却されている問題



これらの問題を解決して、地域に資源として還元することが出来ないか、専門部会を開いて検討しました。

○専門部会での検討を通して、下妻市のバイオマス資源の活用方法として3つの方向性を設定しました。

## 1. 下妻ブランドの作成

→市内で生産した堆肥をブレンドし、下妻市でオリジナルの堆肥を製造する。野菜や稲作に最適な配合の堆肥を数種類用意し、地元の農家に格安で販売していく。

## 2. メタン発酵施設、バイオマス発電施設

→メタン発酵施設やバイオマス発電施設を建設し、余剰堆肥や食品残渣、剪定枝、市民が出すごみを分別収集して発電施設の原料とし、発電した電力を地域に還元していく。

## 3. 固形燃料化

→市内のもみ殻・稲わらと、紙類・プラスチック類・ビニール類の分別を市民の皆さんに協力してもらい、これらを原料として固形燃料を製造し、販売していく。



委員会での検討をしていく中で方向性は定まってきましたが、下妻市の現状が把握しきれないことがわかってきました。

○様々な問題があり、マイナスイメージが強かったもみ殻・稲わら、果樹剪定枝、家畜排せつ物等ですが、有効活用していけばそれが一転して地域の宝となります。市内のバイオマス資源を地域の宝に変えていくために、市内の現状把握やどのような技術が適しているのかを調べるため、FS(feasibility study)調査(実行可能性の検討調査)を行っていきます。

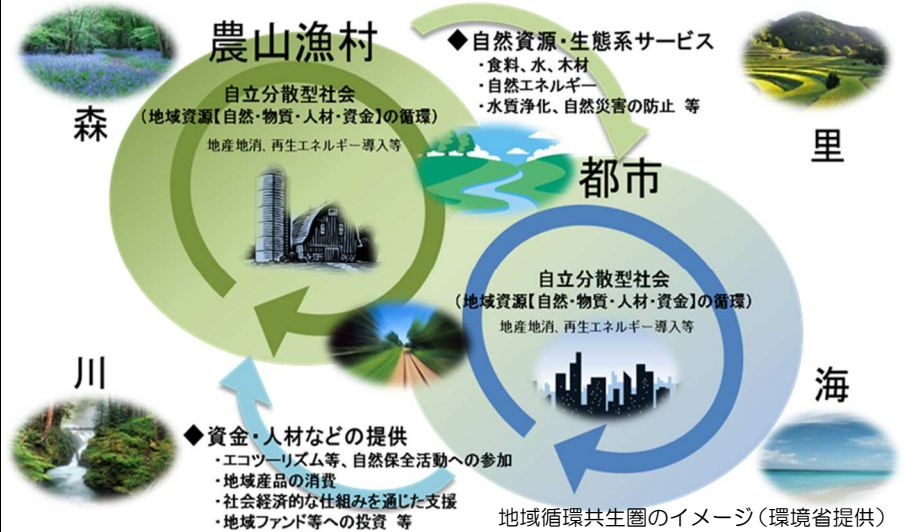


# 2025年までの目標

## 下妻市全体の目標

各地域がそれぞれの特性、地域資源を活かして、自立・分散型の社会を形成し、支えあう社会を形成していきます。

環境・経済・社会を個別ではなく、統合的に成長させていく事や、幅広いパートナーシップの充実と強化を図り、生活の質を向上させながら新たな成長を目指して、地域循環共生圏（ローカルSDGs）を構成していきます。



## アクションプラン推進に向けて



### 砂沼の活用



中期目標に設定されている「生物多様性地域戦略」の砂沼版での策定を目指して、新たに設置した「砂沼連絡協議会（仮称）」と連携協力しながら生物相調査を行っていきます。

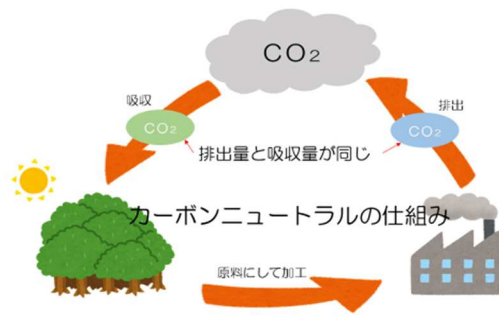
それと同時に、アオコの発生や漂着ごみ問題の改善方法も検討していき、砂沼アクションプランで上げた課題を解決し、魅力ある砂沼を創っていきます。

### バイオマスの活用



FS調査の結果を踏まえて、3つの方向性を検討していきます。どの方向性で進めていくか決まったとしても、市民・事業者・行政が個別に動いていたのでは下妻市として成長していく事は出来ません。

市民・事業者・行政のすべてが連携協力し、下妻市としてカーボンニュートラルの実現を目指していきます。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 下妻市環境アクションプラン

(令和3年2月)

発行：下妻市

〒304-8501

下妻市本城町2丁目22番地

電話 0296-43-2111(代)